

新型コロナなど新興感染症等に係る看護職員等確保事業 災害支援ナース養成研修

| | |
|------|---|
| 研修目的 | <p>1.災害・感染症等に関する基礎知識・技術を習得する。</p> <p>2.応援派遣の概要を理解し、研修修了者として実際の派遣時に対応できる技能を習得する。</p> <p>【災害】</p> <p>1.看護職として必要な災害医療と看護の基礎知識を習得する。</p> <p>2.災害時の看護職の役割と活動の実際を理解する。</p> <p>3.看護職として、被災地や被災者に対して有効に機能できる技能を習得する。</p> <p>4.災害時に看護職として他者と協働でき、自律した活動ができる知識を習得する。</p> <p>【感染症】</p> <p>1.新型コロナなど新興感染症に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>2.新型コロナなど新興感染症患者に対応できる知識・技術を習得する。</p> <p>3.酸素療法、集中治療管理に関する基本知識を習得する。</p> <p>4.新型コロナなど新興感染症患者の看護に関する基本知識を習得する。</p> |
| 対象 | <p>災害・感染症に係る応援派遣対応看護職員を目指す者</p> <p>※所属の医療機関において、災害支援ナースとして配置される予定の者を優先</p> |
| 研修時間 | <p>6日間</p> <p style="margin-left: 20px;">講義(オンデマンド)4日間:総論120分/災害各論540分/感染症各論540分</p> <p style="margin-left: 20px;">演習(集合研修)2日間:講義60分/災害270分/感染症270分</p> |

講義(オンデマンド)

| 章 | 単元/主な内容 | 講師(所属等) ※敬称略 | 視聴時間 |
|---|--|-------------------------------------|------|
| 1 | 【総論】 災害・感染症に係る応援派遣の対応 | 鎌田 久美子(公益社団法人日本看護協会) | 120分 |
| 2 | 【各論(災害)】 災害医療の基礎知識 ・災害とは ・わが国の災害医療体制 | 小井土 雄一 (国立病院機構本部DMAT事務局) | 180分 |
| 3 | 災害時に求められる看護支援活動 ・災害看護とは ・災害時保健医療福祉活動における看護 ・災害の場に応じた看護支援活動 ・災害時要援護者の特徴と看護 | 石井 美恵子(国際医療福祉大学大学院) | 150分 |
| 4 | 災害時の感染対策 ・災害時に注意すべき感染症とその要因 ・避難所における感染症のリスクアセスメントの考え方 ・避難所における感染症対策の例(複合災害時の対応等を含む) | 山本 由紀子(地方独立行政法人市立秋田総合病院 感染管理 認定看護師) | 60分 |
| 5 | 災害時の心理的变化とこころのケア ・被災者に生じやすい心理的問題 ・被災者に接する際の基本的留意点 ・わが国の災害精神医療体制(DPAT含む) ・支援者の惨事ストレスとケア(事例含む) | 河嶋 讓 (国立病院機構本部DMAT事務局) | 90分 |

| 章 | 単元／主な内容 | 講師(所属等) ※敬称略 | 視聴時間 |
|----|---|---|------|
| 6 | 災害時の看護職の活動事例 ・派遣された看護職の活動事例 ・活動場所で直面する様々な状況 | 岡崎 敦子(独立行政法人国立病院 機構災害医療センター 災害看護専門看護師) | 60分 |
| - | 災害 確認テスト | 10問 | - |
| 7 | 【各論(感染症)】 新型コロナなど新興感染症の基礎知識 ・新興感染症/パンデミック ・新興感染症等の感染拡大時における医療提供体制の確保 | 大曲 貴夫 (国立国際医療研究センター国際感染症センター長・感染症内科医長) | 60分 |
| 8 | 新型コロナなど新興感染症の基礎知識 1)感染拡大・重症化を防ぐ技術の提供に必要な知識 ・手指衛生 ・PPE(个人防护具)の種類や着脱等 ・ゾーニング ・環境整備・廃棄物・寝具・食器の取り扱い ・死亡時の対応 2)院内感染発生時の初期対応・クラスター発生予防の対策 | 美島 路恵 (東京慈恵会医科大学附属病院・感染対策部 感染管理認定看護師) | 60分 |
| 9 | 新型コロナなど新興感染症患者の治療と観察ポイント(軽～中等症) | 小倉 高志 (神奈川県立循環器呼吸器病センター所長) | 60分 |
| 10 | 新型コロナなど新興感染症患者の看護(軽～中等症)① (医療機関と在宅・宿泊療養を含める) 1)重症化予防のための患者評価と対応 ・緊急性の判断と急変対応 ・重症化予防 ・異常の早期発見 ・患者家族への精神的ケア ・医療機関と在宅・宿泊療養での対応の特徴 | 杉本 環 (日本看護協会認定看護師教育課程 救急看護認定看護師) | 60分 |
| | 2)重症化予防のための患者評価と対応(軽～中等症)② (医療機関と在宅・宿泊療養を含める) ・酸素療法 ・呼吸理学療法 ・体力の消耗を最小限にするための患者への生活指導 | 富阪 幸子 (日本看護協会認定看護師教育課程 クリティカルケア認定看護師) | 60分 |
| 11 | 新型コロナなど新興感染症患者の集中治療管理(重症) | 則末 泰博 (東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科・集中治療部門部長・呼吸器内科部長) | 60分 |

| 章 | 単元／主な内容 | 講師(所属等) ※敬称略 | 視聴時間 |
|----|---|--|------|
| 12 | 新型コロナなど新興感染症患者の看護(重症) 1)生命維持装置の管理 ・ネーザルハイフロー、人工呼吸器、ECMO,CHDF(*1)等 | 三木 隆弘 (日本大学病院) | 60分 |
| | 2)人工呼吸器管理、ECMO 管理における看護 | 濱本 実也 (公立陶生病院・集中ケア認定看護師) | 60分 |
| | 3)重症患者家族への精神的なケア ・隔離による不安、意思決定支援、看取り 等 | 立野 淳子 (小倉記念病院看護部 クオリティマネージメント科 科長 急性・重症患者看護 専門看護師) | 60分 |
| - | 感染症 確認テスト | 10問 | |

*1: 体外式膜型人工肺(ECMO)、持続緩徐式血液濾過透析(CHDF)

演習(集合研修)

| 章 | 単元／主な内容 | 講師(所属等) ※敬称略 | 時間 |
|---|--|--|------|
| 1 | 【講義】 徳島県における災害・感染症に係る応援派遣時の看護支援活動 ・徳島県の災害・感染症に係る応援派遣・医療提供体制の状況や対策 (派遣の仕組み、登録含む) ・徳島県看護協会における災害・感染症に係る応援派遣時の看護支援活動 | 徳島県医療政策課 | 50分 |
| | 災害支援ナースとしての心構え (支援側・受援側の立場の理解) | 徳島県看護協会 | 10分 |
| 2 | 【演習(災害)】 災害時の看護職の活動の実際 1)派遣決定から出発までの準備 ワーク: 派遣決定までの調整と準備、派遣決定から出発までの準備、携行品、活動の原則 | 吉野川医療センター 大西須真子 仁木祐江 阿南医療センター 桑村直美 徳島市民病院 山下千花 医療政策課 阿部未菜実 徳島大学大学院 山下留理子 県立総合看護学校 逢坂めぐみ つるぎ町立半田病院 上野妃呂子 徳島赤十字病院 藤本華織 | 270分 |
| | 2)支援者としての心構え | | |
| | 3)活動場所の違いによる活動の特徴(医療機関、避難所) | | |
| | 4)CSCA(TTT)(*2) ワーク:安全管理 | | |
| | 5)方針に沿った活動 ワーク:救急搬送や発熱者等の対応、新たな活動を依頼されたら、記録と報告、活動終了に向けて、帰還後に行うこと | | |
| | まとめ | | |

| 章 | 単元／主な内容 | 講師(所属等) ※敬称略 | 時間 |
|---|--|---|------|
| 3 | 【演習(感染症)】 感染拡大時の看護職の活動の実際 1) 感染拡大・重症化の予防 医療機関、療養施設、高齢者施設、避難所、自宅など施設ごとの違いや特徴を踏まえた標準予防策およびゾーニングの基礎を学ぶ ・手指衛生、PPE(個人防御具着脱・区域ごとのポイント、狭い空間や自宅等)の体験 ・ゾーニング(環境整備・廃棄物・寝具・食器の取り扱い、感染が拡大した場合のゾーニング、自分が指導する場合など)の体験 | 感染管理認定看護師 講師 徳島赤十字病院 佐竹孝文 ファシリテーター 阿南医療センター 幸木千夏 原崎友香 徳島大学大学院医歯薬学研究部 リカレント教育センター 西野さおり 徳島市民病院 金丸昌史 | 270分 |
| | 2) 安楽な呼吸を保つための看護 感染予防策(PPEを装着)を実施したうえで、安楽な呼吸へのケアや日常生活援助を体験的に学ぶ 例) ・酸素療法や吸引が必要な患者への対応 ・呼吸理学療法・体位ドレナージ/ポジショニングの実際 ・認知症患者など、感染対策を守れない患者への対応 ・清潔ケア時の全身観察と注意点の理解 | 救急看護認定看護師 急性重症患者看護専門 看護師 徳島赤十字病院 福田ひろみ | |
| | 3) 集中治療室内での管理 集中治療室で使用する医療機器及び生体モニターの管理及び生じやすいトラブルについての基礎的な知識を学ぶ ・トラブルシューティングなどの事例検討をおこなう | | |
| | 4) 多職種連携による医療提供 派遣先の医療機関等における指揮命令系統や各専門職が担う役割を理解し行動ができる ・他施設での連携の難しさや留意点を学ぶ | 阿南医療センター(DMAT隊員) 幸木千夏 | |
| | 5) 患者・家族へのケア 応援派遣の際に生じる事例を通して、隔離による不安、意思決定支援、看取りケア、死亡時の対応を理解する | クリティカルケア認定看護師 徳島大学病院 河原良美 | |
| | まとめ | | |

* 2: Command & Control(指揮・調整)、Safety(安全)、Communication(情報)、Assessment(評価)、Triage(トリアージ)、Treatment(治療)、Transport(搬送)